



12

2016/DEC  
誠美保育園

# ・誠美だより

## そして、表現は巡る

どんどん早くなる夕闇の訪れに追われるように、あつという間の冬の到来。

運動会、おにぎりの日、みんなの作品展、芋掘り・焼き芋、お楽しみ会：今年の秋もなんだかんだと…楽しかったよなあ…そんな総括をして、私たちに伝えてくれないのも…また子どもたち。それでも色んな事があつたんです。

特に晩秋は、みんなの作品展、お楽しみ会と「表現」することを考える機会や活動が続きました。

作品作りを通じた交流をと、毎年開催する「みんなの作品展」。出展くださった皆さん、ありがとうございました。新たな作品を飾りつける度に、「今度は誰の?」と興味深げに近づいてくる子どもは多いのですが、その作品に触発され、制作を開始する子どもたちも少なくありません。今年は、N先生ご愛息T君の作品、厚紙で立体造形した旅客機の模型数機に心奪われた子どもたちが、それぞれのイメージや技術を駆使した紙飛行機を、次々と出品してくれました。

「発想とは対話」、以前耳にした禅問答のような言葉ですが、己の発想とは互いに刺激し合う事でのみ生ずる…今回はその読み解いてみました。展示を前に、作者の別の一面に驚きながら語り合う事も楽しいのですが、作品自体で誘発し合うのもまた交流です。

そして先日のお楽しみ会、4・5歳児はクラスの枠組みを解き、子どもそれぞれが、劇かダンスパフォーマンスを選択して取り組むという新しい形に挑戦してみました。なので、そのプロセスを記録した今回の「絵巻」は、職員ミーティングの様子からスタートしています。

その中で触れられているように、今回の形は、夏のお神輿作りの経験(5歳児の3チームがプレゼンテーションをして3・4歳児から製作メンバーを募る。)によるところも大きかったようです。いわゆる作品の出来栄えを目標としない私たちの活動なのですが、完成した今年のお神輿は、一味違うように私たち保育者は感じましたし、保護者の方々からもそういった感想をいくつも頂きました。そこを求めているのに、子どもたち決

めた（選んだ）内容に対し、保育者がそのプロセスを丁寧追っていかうとした結果、図らずも心動かされるものになっていった…そんな印象を持ちました。

よく考えてみると、お神輿作りも劇遊びやダンスも、その過程では様々な経験を期待はしているのですが、最終的には何かを「表現」することがゴールになっています。「自分が表現したい事を表現する」という、当たり前といえは当たり前の行為、そしてその子どもなりの思考錯誤を大人（保育者）がどう支えていくのか、鍵なのかもしれません。

さて、そんな今年お楽しみ会、幕間の有志によるパフォーマンス、そして「楽しかったあ」とつぶやきながら、舞台袖に戻ってくる子どもたちの声。「見せたい気持ち」が、グツと前に出ていたように、私には感じられたのですが。

もうひとつ印象的だったのが、2歳児たちの保育室でのごっこ遊びの披露でした。この年齢で敢えて場を設定することの意味を、自問自答しながら取り組んできてはいるのですが、特に今年は、みんなが臆する様子も見せず、本当に「遊ん

で」いるかのように私には見えました。子どもたちとの間でも「見せる」という事は脇に置き、ただごっこ遊びを楽しみ続けたこと、遊びなので気乗りしない子は無理に誘う事もしなかった…これが担任たちのこだわりだったようです。

そして表現したいという思いの育ちは、0～1歳児クラスで実施した、親子でのふれあい（わらべうた）遊びなど、身体を通した穏やかでシンプルな、情感の交換から始まっていきます。

表現する者とそれを観る者（受け手）、この2者があつて初めて成立するのが表現活動です。なので、実は受け手の力量（共感力）も試されているように思うのです。

これは、総括し過ぎて、日常の中にあ

る、小さくてささやかな感動を、つい忘れてしまう…そんな大人たちへの問い掛けであるような気がします。まもなく年の瀬を迎えます。

園長 折井誠司

## キャンドルナイトのご案内

世界の子どもたち、家族、動植、植物…地球上仲間みんなの幸せを祈りながら、毎年、冬至の日に合わせ、子どもたちと園庭いっぱいキャンドルを灯します。

今年は12月21日（水）の夕刻を予定しております。

編集 誠美保育園  
発行人 折井 誠司  
印刷所 誠美保育園

社会福祉法人 誠美福祉会  
〒192-0364 東京都八王子市南大沢5-12  
電話 042-675-1551

ファックス 042-677-5643  
E-mail: seibi@nokken.jp

http://nokken.jp/